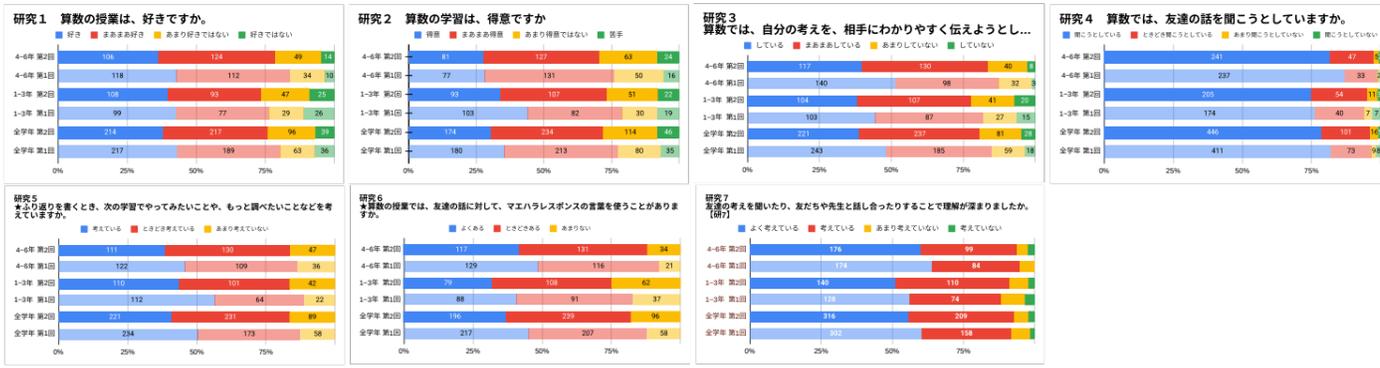
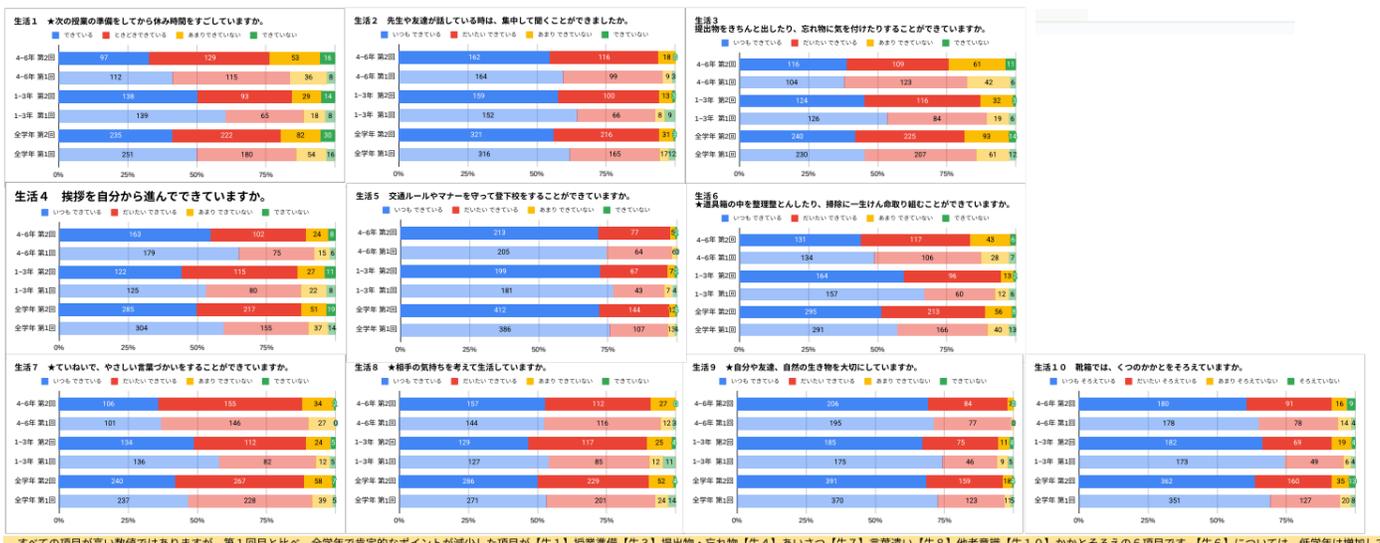


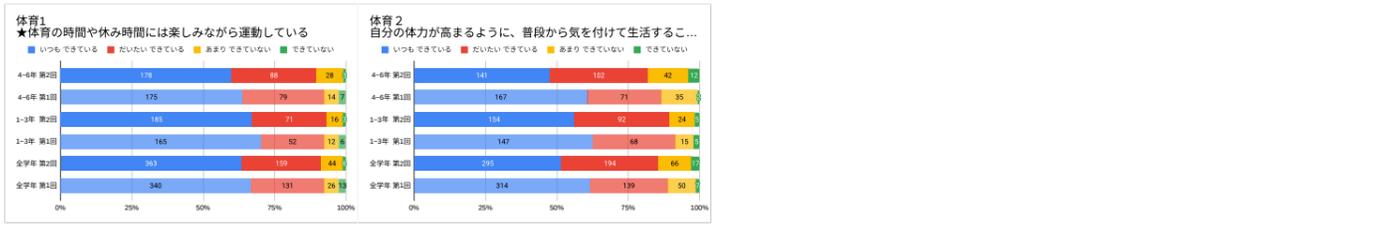
令和7年度学校評価 第2回 児童アンケート



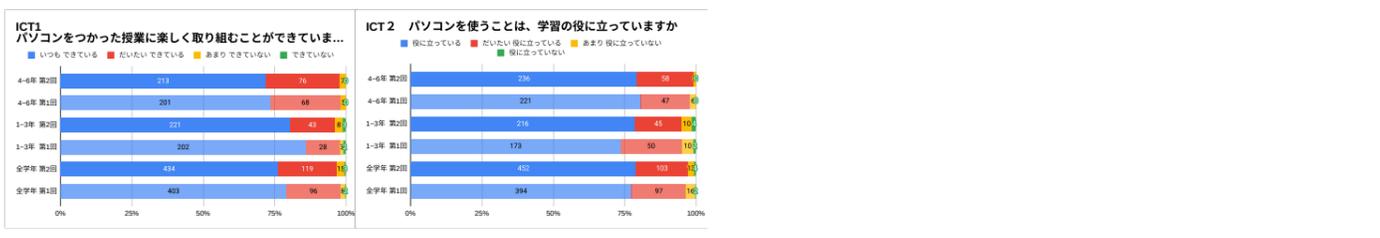
第1回から第2回の学校評価アンケートの結果から、算数の授業における対話的な学びが、全学年で着実に広がっていることが分かりました。算数の授業について「好き」「まあまあ好き」と回答した児童は全体の約80%を占めており、算数に前向きに取り組む姿が多く見られます。一方で、高学年を中心に「好き」「得意」と言い切らず、自分の理解をより現実的に捉える児童が増え、学習内容の難しさに向き合っている様子も出ています。また、算数の授業で「友達の話の間こうとしている」と答えた児童は、全学年で約95%に達しており、話を聞き合う姿勢が学校の定着してきています。さらに、友達や先生と話し合うことで「理解が深まった」「まあまあ深まった」と感じている児童は約90%にのぼり、対話が学びを深める手段として機能していることが分かります。振り返りについては、「次の学習でやりたいことを考えている」と回答した児童は全体の約4割でしたが、「ときどき考えている」を含めると約80%となり、学びを次につなげようとする意識は広がっています。また、友達の意見に反応する「マエハラレスポンス」の言葉についても、約80%の児童が「使っている」と感じ、対話の基盤が育ってきています。今後も、問い返しや振り返りを大切にしながら、児童一人一人が「分かった」「できた」と実感できる算数の授業づくりを進めてまいります。



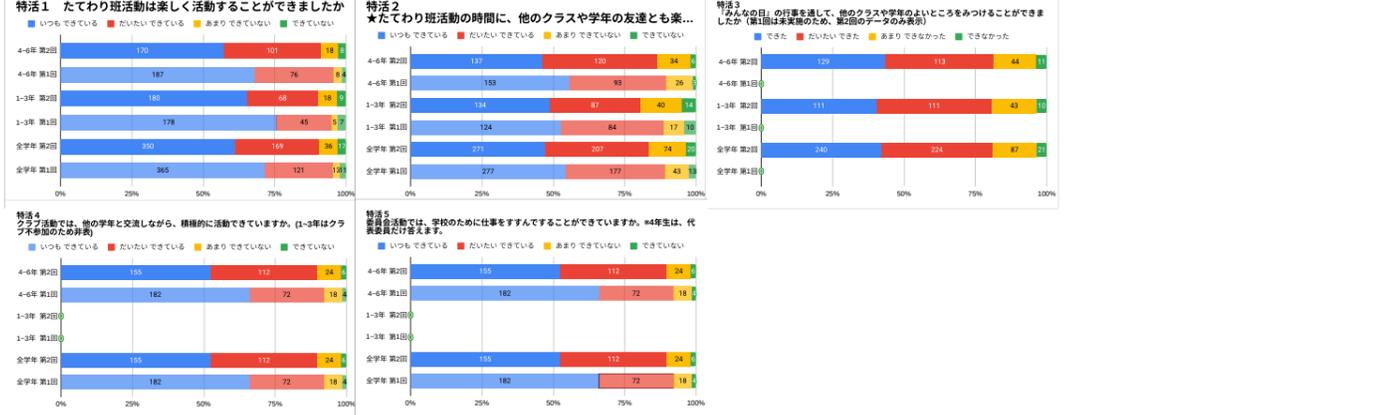
すべての項目が高い数値ではありますが、第1回目と比べ、全学年で肯定的なポイントが減少した項目が【生1】授業準備【生3】提出物・忘れ物【生4】あいさつ【生7】言葉遣い【生8】他者意識【生10】かかとをそろえるの6項目です。【生6】については、低学年は増加していますが、高学年は減少しています。整理整頓について、明確な時間を設定し、整頓できる時間を保証していきたいと思えます。また、清掃については、決められた清掃場所を確実に掃除ができるよう「清掃がんばったチェック」等を行い、前向きに清掃活動ができるような取組の工夫を考えていきます。



1回目に比べて若干ではありますが、肯定的な回答が減っています。肯定的な回答の割合を、低学年と高学年に分けて見てみると、高学年はわずかに減少、低学年はわずかに増加しています。一般的に、高学年になるにつれて運動する児童としない児童が2極化する傾向にあると考えられるので、前原でもその傾向があると思われます。休み時間の自発的な外遊びだけでなく、クラス遊び等を推奨していくと、みんなで楽しく遊べる機会を確保していきたいと思えます。



【ICT1】【ICT2】共に、肯定的な回答が増えています。4～6年の回答は、1～3年と比べると肯定的な回答の割合が減少しています。背景として、授業でタブレット端末を本格的に活用するのが中学年からということもあり、「楽しさ」から「利活用」への壁が考えられます。教師自身が発達段階を踏まえたICT技能の実態を知り、タブレット端末の利活用の仕方を段階的に指導していくことで向上へつなげていきます。



すべての項目が高いですが、第1回目と比べると第2回は全体的に下がっています。年間を通して活動しているため中々たるみしてしまつたと思われるので、活動のたびに学年と交流の良さや活動の意義を伝えていこうと思えます。『みんなの日』では、行事を通して他学年の良さを感じた児童が約8割となりました。代表委員会を中心に全校で話し合い、次年度はもっと他学年と関わることができる行事を提案できるように支援していきます。



すべての項目が高い数値ですが、第1回目と比べ、肯定的なポイントがわずかに減少しています。地域2の関わりについて、他のものよりも減少幅が大きいことから、児童がすすんで関わった実感があったことにより、他の関わりについても減少傾向が見られたと考えられます。「進んで関わる」ということが意識が分からなかった可能性もあるので、今後は、質問内容の変更を検討し、また生活科や総合的な学習の時間を中心として教科横断的に地域人材と関わるような取組の工夫を考えていきます。